

Part3 実践

Part3-1 エイズ教育事業実施の事前調査

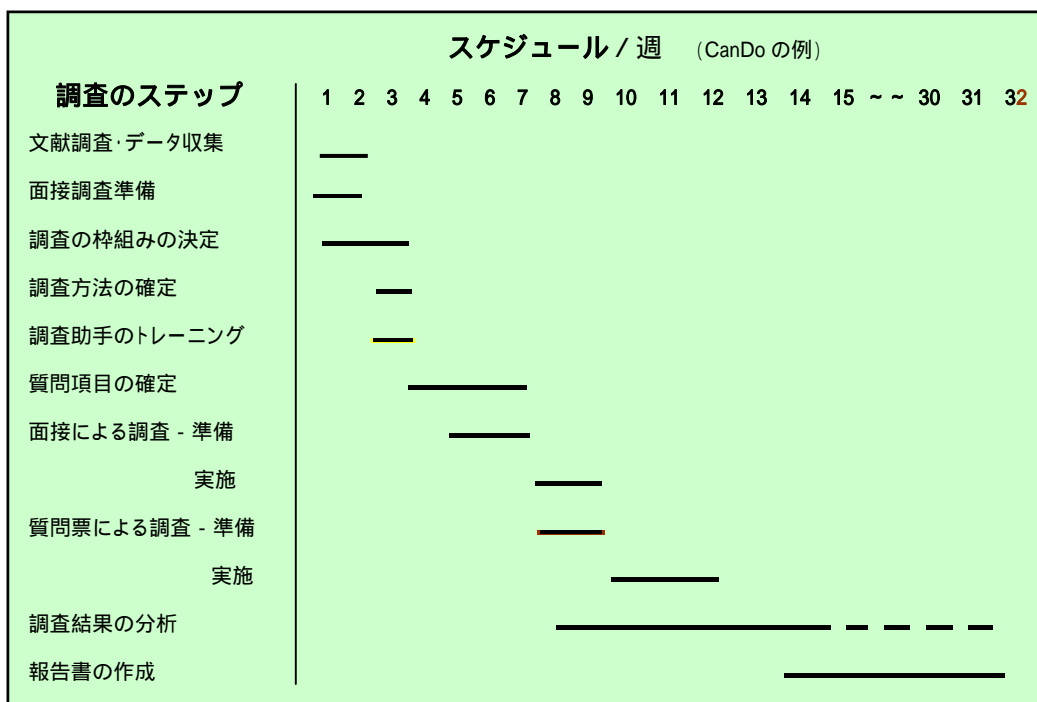
効果の高いエイズ教育に向け、地域、教員の状況を的確に知る調査の留意点

エイズ教育は、知識を知識に留めず、態度に反映させ、対人能力の習得と一体化させるライフスキル教育の視点を取り入れてこそ、より高い成果が期待できるということを Part1 と Part2 で見てきました。そうしたエイズ教育を組み立てていくために、担い手たる教員と地域の人々の状況について理解することが不可欠です。学校保健事業の実施に向けた NGO の事前調査の取り組み事例から見ていきます。

1-1. エイズ教育事業を始める前に

事前調査は、勝手な思い込みを排除するために不可欠であり、また、これによって事業の出発点の状態が把握でき、事業評価に役立てられます。また、調査は住民に対して行うので、事業開始への準備、導入としての役割も持たせることができます。

調査は人々に期待を持たせます。実施するかどうか分からない段階で大規模に現地調査をし、結局事業を行わなければ、期待を裏切ることになり、団体と地域との信頼関係を揺るがしかねません。そこで、他の事業を実施しながら、日常的に地域を観察したり、住民と話をする中でニーズを拾っていくなど、調査は様々な方法で考えることが可能です。Part3 では、CanDoによるケニア共和国ムイギ県ヌー郡での学校保健事業の実施可能性調査¹を取り上げます。調査者は日本人、補助はケニア人専門家が務めました。



¹ Yuki Nakamura, "A Feasibility Study For a School Health Project In Nuu Division, Mwingi District, Kenya", CanDo, Oct 2004. (http://www.cando.or.jp/survey_rpt_schlt0410.pdf)

1-2. 地域の状況を把握し、エイズ教育の強化方法を探る

1. 文献調査・データ収集

基礎情報の収集として、教育や保健に関する政府政策、国や事業地のデータ(政府統計や国連統計など)などの文献調査をします。

2. 調査の枠組みの決定

まず、調査の目的をはっきりさせます。

この例では、当初、実施可能性調査の段階では広く保健一般を対象とした学校保健事業を検討し、HIV/エイズはその一部と想定し、調査目的を2つ設定しました。

- (1). 地域の保健問題(HIV/エイズを含む)について、住民がどのような状況に置かれ、どのような知識・態度・認識を持っているのか、明らかにする。
- (2). (1)の状況が農村部の小学校でのエイズ教育に与えている影響を調査し、農村部小学校でのエイズ教育の強化方法を探る。

3. 調査方法の確定

調査内容では、定量的に調べるものと、定性的に調べるものがあります。また、方法では、面接によるものと質問表によるものなどがあります。この調査では、定性調査は面接で、定量調査は調査員立会いの下、各自が質問表に記入する方法をとりました。

定性調査/面接による聞き取り

- 教員対象 集団面接調査 (5小学校、30名) * (カッコ内は調査対象者数)
- 保護者対象 集団面接調査 (4小学校、約100名)
- 教員対象 フォーカス・グループ面接調査 (2小学校、15名)
- 教育官対象 詳細面接調査 (2名)
- 女性保護者対象 詳細面接調査 女性性器切除(FGM)について (1小学校、3名)

調査内容は、
p33,34「質問の流れ」
参照

留意点

調査のしかたは、調査内容や現場の状況に応じて

性についての質問に率直に答えてもらうため、保護者への面談調査は男女を分けます。教員は、女性教員の数が極端に少ない学校があれば男女混合で実施します。

事前に通知するのがよいか、通知せずに飛び込みで調査するか、調査内容により使い分けます。

使用言語は、英語が公用語のケニアでは、教員や教育官は英語でのコミュニケーションに支障がないので英語。保護者に対しては、英語と現地語を併用(調査地と同じ民族の調査助手を雇用)。

定量調査／質問表への記入

調査内容は、p89の
質問項目を参照

郡内の全小学校(28校)の教員を対象に、質問票による調査を実施しました。
調査方法は、調査チーム(2~3人)が小学校を訪問し、その場で全教員に記入してもらい、回収しました。率直に回答できるよう、匿名性に配慮しました。欠勤教員や、授業を離れられない教員がいた場合は、質問票を校長に預け、後で回答して送付してもらいました。なお、この調査では、全教員202名中、167名から回答が得られました(回収率82.7%)。

留意点

より正確に状況を把握するために



小学校での調査の様子(左が調査員)

調査チームが学校に向くのは、目の前で記載してもらい、教員の知識の状態などを正確に把握するためであり、回答に際して教員が相談しあって記載することがないことを保証するためです。こうして、より正確に状況を把握していきます。

一方、質問票を学校に送り、教員が自由な時間に記入し、返送してもらう方法もあります。調査目的やコスト(人、時間、費用)、回収率の確保などを考慮して、よりよい方法を選択します。

4 . 質問項目の確定

定性調査 / 面接による聞き取り

面接による調査は、質問のポイントと流れを調査者が準備しておくことで、的確な情報を拾うことができます。ただし、質問が詳細に決められ過ぎていると自由な発言を妨げ、回答者の意図が調査者に伝わらない危険もあります。今回の調査では、半構造調査を採用し、質問の流れを組み立てました。

定性調査【教員対象フォーカス・グループ面接調査】 質問の流れ

調査を開始

「この地域や学校での保健問題について教えてください。
みなさんそれぞれにとって最も大きな問題から始めましょうか」

導入の質問

「それらの保健問題に対してこの学校ではどのように対処していますか？」
「この学校での保健教育について教えていただけますか。
保健教育を行うカリキュラムはこの学校にありますか？」

つなぎの質問

「保健教育では何が特に重要だとお考えですか？」

外せない質問

「小学校でエイズ教育を行うことについて、どう思いますか？
エイズ教育を計画する際には何が必要だと思いますか？」
「HIV/エイズについて知っていることを教えていただけますか(知識、地域での状況など)？
その情報はどこから得ましたか？」
「エイズ問題を教員として扱う際に最も困難なことは何ですか？
地域の人たちはエイズについて、自信を持って、あるいは周囲を気にすることなく、
話すことができると思いますか？」

しめくり

「この学校で、エイズに関する課題は他にありますか？」
「エイズに関するワークショップがあれば自分のクラスでエイズを扱うのに役立つと思いますか？」
「他に話し合っておいたほうがよいと思われることがあれば、自由に発言ください」

そのほかに

- ・HIV/エイズ教育に関する教材へのアクセス
- ・エイズ教育を実施する際に地域から期待できるサポート
- ・エイズやその他の保健問題に関する教員の知識
- ・地域での早婚 ・早婚に関わる退学

質問の原文
p89 付録1 参照

【保護者への詳細面接調査 質問の流れ】

地域での保健に関する一般的な質問

「この地域での保健問題について教えていただけますか？」

「この地域で病気になったときに困るのはどんなことですか？」

「病気はどのように治療しますか(病院、祈祷師、伝統医療)？」

HIV/エイズについて

「繰り返し起きる病気にはどんなものがありますか？」

「治療できない病気で亡くなった人に対して、人々はどう思いますか？」

「治療できない病気(エイズ)について、知っていることを何でも

教えてください(感染、治療、予防、危険行動)」

「地域の人々は、エイズについて自由に話すことができますか？」

自由に話せないとしたら、それはなぜですか？」

女性性器切除(FGM)について

「この地域で女の子たちは何歳ぐらいで結婚しますか？」

その理由は(強制的、自発的)？」

「女の子たちは結婚の準備がどれぐらいできていますか？」

「女の子が結婚する際に伝統的にとり行われるべき儀式はありますか？」

あるとしたら、どんなことで、その理由は何ですか？」

「早婚や女性性器切除(FGM)について、どんな危険があると思いますか？」

質問の原文

p90 付録2 参照

定量調査 / 質問表への記入

< 質問票調査項目 >

回答者の属性

性別、年齢、宗教

HIV/エイズの知識

・感染経路、HIV とエイズの違い

・HIV/エイズに関する情報源

保健教育活動の実践状況

・道徳で扱う項目、授業で保健教育を扱う割合

・保健関連ワークショップへの参加経験

・ワークショップで扱うべき保健に関する項目

HIV/エイズに関する認識

・守られるべき伝統

・HIV 感染者への認識

・性感染症や HIV 感染に対する子どもの脆弱性

・性感染症や HIV 感染に対する大人の脆弱性

・HIV/エイズに取り組む際の責任が誰にあるか

・子どもにコンドームについて教えること

・HIV 感染予防におけるコンドームの有効性

質問票調査は比較的短時間に多くの回答を得ることができ、地域全体の傾向をつかむことができます。

質問の原文

p91 付録3

参照

5. 調査の準備

調査の実施に際し、事前に郡教育官に合意を取りつけ、小学校に文書による通知などを行います。

6. 調査の実施

事前に準備した質問項目に沿って、実際の調査を実施します。録音する場合は、必ず毎回その場で協力者の了解を取ることが必要です。

7. 調査結果の分析

定性調査の結果

- 保健教育に対するケニア政府の方針、教育現場の反応
 - ・ケニア政府によるエイズ教育:教科書の存在
 - ・エイズ教育を教科教育に主流化していく流れ
 - ・教室でのエイズ教育の難しさ:教員の知識不足、コンドームの問題
 - ・学校の保健教育への保健官の関与:建前と現実の乖離(政府は推奨、保健官と教育官とは調整困難)
- 保健問題
- ・地域での代表的な保健問題:マラリア、腸チフス、皮膚病、風邪、下痢
 - ・治療:医療施設の利用と、伝統的薬草の利用
 - ・病気になったときの課題:医療施設まで遠い、医療費が払えない、病気について情報不足、医療施設の薬の不備など
- HIV/エイズ
- ・地域における HIV/エイズに対する認識:HIV/エイズに対する危機意識と正確な知識の不足
 - ・HIV/エイズに関する情報源:住民集会、教会、ラジオ、新聞、ワークショップでの配布物
 - ・HIV/エイズに関する作り話や誤情報:呪術やタブーとの関連づけ、不道德との関連づけ
 - ・HIV/エイズの状況:エイズは現実の脅威として認識
 - ・HIV 感染を促進しうる地域の慣習、性行動:一夫多妻制と早婚、妻の相続、女性性器切除(FGM)、カウエット制度(女性同士の結婚)
 - ・地域での HIV/エイズに対する活動:
 - 住民集会:「エイズについて話し合わなければならない」「コンドームを使いなさい」というメッセージが根拠なしに流される。
 - 住民組織によるワークショップ
 - 郡教育事務所による教員対象ワークショップ:力点は、エイズを教科教育に統合する方法
 - 郡内で開催されたセミナーの課題:参加者が限定されている、情報の正確さと情報の受容度
 - ・地域における HIV/エイズへの認識と予防行動:強い危機意識と無関心との混在、HIV 感染予防の取組みの不在、コンドームが現実的に利用できない環境、コンドームの有効性への不信任感
- 小学校における保健教育と HIV/エイズ教育
- ・必要性を認識し、NGO によるワークショップ開催を要望。

地域、HIV/教育の
4つの問題、課題

1. 地域で、予防手段を含む HIV/エイズに関する知識が絶対的に不足
2. セミナーやワークショップに、男性の参加が圧倒的に不足
3. HIV/エイズの感染拡大につながり得る伝統や慣習がある。これらは外部者の介入が困難
4. 学校での HIV/エイズ教育の限界。保護者や地域が一定の役割を担う必要

定量調査の結果

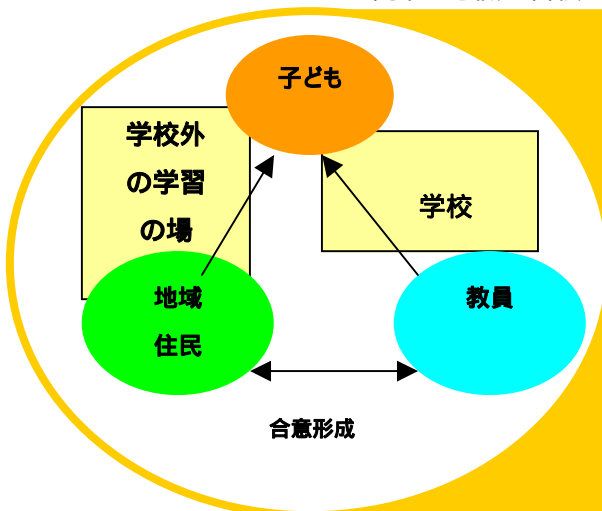
- ・教員が、より正確な知識を持っているほど、授業で保健教育が行われている。
- ・授業で保健教育を行っている教員ほど、性感染症や HIV/エイズを不道德と捉えている。
- ・性感染症や HIV/エイズに対する子どもの脆弱性を感じている教員ほど、大人の脆弱性も感じている。ただし、大人の脆弱性のほうが子どもの脆弱性よりも強く感じられている傾向がある。
- ・性感染症や HIV/エイズへの大人の脆弱性を感じている教員ほど、HIV 感染者と一緒に働くことに肯定的。
- ・性感染症や HIV/エイズへの大人や子どもの脆弱性を感じている教員ほど、コンドームに関する知識を子どもへ伝えることに肯定的。
- ・コンドームが HIV 感染予防に有効であると考える教員ほど、子どもにコンドームの知識を伝えるべき、と考えている。
- ・HIV/エイズの正確な知識を持っている教員ほど、性感染症や HIV に対する大人や子どもの脆弱性への関心が高い。
- ・ワークショップへの参加と、HIV/エイズの知識や認識との間に、相関は見られない。

HIV/エイズに関して教員について
明らかになったこと

1. 教員は、HIV/エイズに関する正しい知識が不足
2. 教員は、HIV/エイズの知識や情報を得る機会や情報源が不足
3. 教員の HIV/エイズに対する認識は、コンドームの知識、HIV/エイズの知識、HIV 感染に対する人々の脆弱性についての認識などによって左右される。一方、カトリック信者だから認識が低いとはいえない。

1-3. エイズ教育の強化の方向

調査の分析結果から、次の事業実施可能性が導き出されました。地域住民、教員、各々の役割と、相互の連携の必要が明らかになっています。そして、知識の習得とともに、従来の意識や習慣を乗り越えるために、ライフスキル教育の視点が求められるのです。



HIV/エイズ活動への男性の参加を促進しながら、HIV/エイズについて正しい情報提供が重要。教員と保護者とで、小学校を基点に HIV/エイズに関するワークショップの開催が求められる。

HIV/エイズの知識を子どもたちに伝えるため教員の役割は非常に重要。教員が HIV/エイズを含めた保健教育を実践する計画を作るワークショップが必要。教員の HIV/エイズの知識習得も重要。

子どもへのエイズ教育には保護者の協力が不可欠。教員と保護者が話し合い、性感染症や HIV/エイズについて何を子どもに教えるか、合意形成の場が求められる。